



幸せを呼び
オリジナルリースをつくろう！

立命館大学大阪いばらきキャンパス講座

第11回 ガーデニング講座

日時 2016年11月26日(土) 午後2時～4時

場所 立命館大学 大阪いばらきキャンパスC棟3階 ラーニングシアター(C373)

プログラム **①**クリスマス&新春に生きるリースづくり
②季節のガーデニングのツボを押さえる

講師 高田昇(都市プランナー・ガーデンデザイナー・立命館大学客員教授)
嶋かずみ(ガーデナー・一級造園施工管理技士)

第10回ガーデニング講座 アンケート結果のご紹介 (2016年7月9日実施)

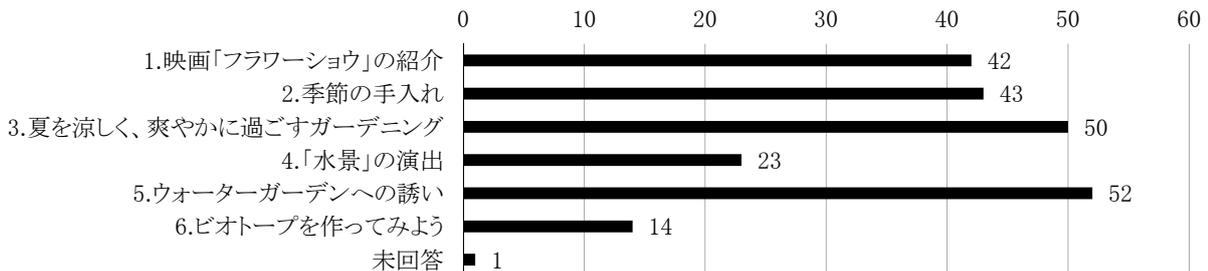
講座テーマは『夏を涼しく過ごすガーデニング』で開催し、「季節のガーデニングのツボを押さえる」「ウォーターガーデンにチャレンジ」などの内容で、82名の方が参加されました。

1. 今日の講座の感想

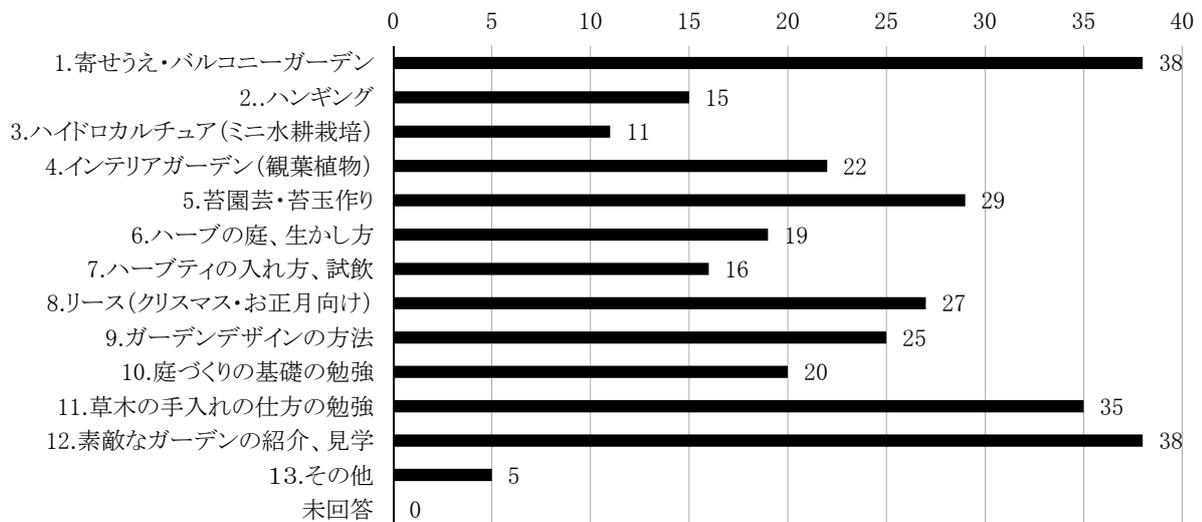


■とても良かった ■まあ良かった □普通であった ■あまり良くなかった ■未回答

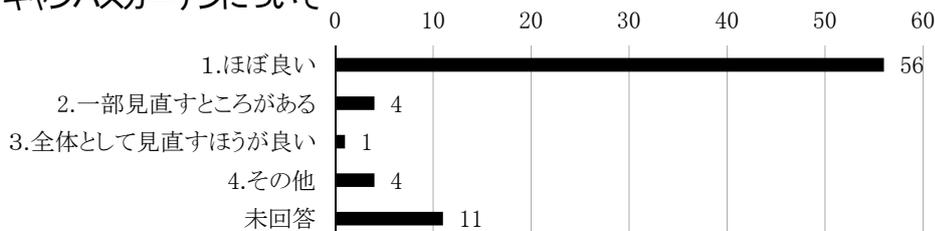
2. 特に興味を持った内容



3. 今後の講座の企画の希望



4. キャンパスガーデンについて



リースについてのお話

リースは、ドアや壁に掛ける輪飾りで、「**幸せを呼び込む**」意味があります。また、始まりも終わりも無いその形から、「**永遠**」や「**円満**」を意味します。歴史はずいぶんと古いうで、キリスト以前のギリシャ時代にも、結婚式や春のお祭りに使われていたそうです。

みなさんがリースと聞いてまず思い起こすのは、クリスマスによく見かけるものではないでしょうか？キリスト教国のクリスマスに飾られるリースの基本は、常緑樹のモミの木や松、月桂樹で、緑の輪を作り、ヒイラギの赤い実やベル、赤いリボン、松ぼっくりを付けたものでしょう。

赤色は、太陽の炎と生命力を、緑色は農作物の生長を意味し、ヒイラギのとげやベルの音は魔よけ、松や松ぼっくりは豊穰多産の象徴です。このようにクリスマスで使われるリースは、「**新しい年の平安と繁栄祈願の飾り**」なのです。



クリスマスは、イエス・キリストの誕生日を祝うキリスト教の祝祭なのですが、聖書にもその日を明記してあるわけではないようです。どうやらクリスマスの「時期」というのは、冬至に起源があるようです。冬至は、1年で一番日が短い日です。しかし、この日を境に日が長くなっていく日もあります。冬至の頃、古代の人々は豊かで光あふれた夏が過ぎ、収穫の秋も終わると、だんだんと日が短く寒くなり、太陽の光が弱まり、闇の世界になってしまうのではないかと恐れから、太陽を復活させようと盛大なお祭りをしました。あるいは、だんだんと夜が短くなり、再び太陽の力が強くなり、あらゆるものが生を受けて、息吹はじめる時と捉えて豊穰祈願しました。

このような冬至祭では、常緑樹を家の中につるしたり、神殿を飾ったりする習慣がありました。常緑樹は、**永遠のいのちのシンボル**なのです。

その後キリスト教が広まっても、それまでの信仰に基づく習慣は、宗教的側面を除かれて受け継がれてきているようです。



クリスマスリースには、以上のような意味があるようです。

今日、私たちは美しい装飾として生活に取り入れて楽しんでいます。リースは**フラワーアレンジメントの一つの型**ともいえるでしょう。

リースには「花をいける」よりずっと古い歴史が・・・

家や祈りの場所を飾るためにリースやガーランド(花の冠の意味、勝利の印を意味します)を作る風習は、世界の古い文化に起源があります。

現在の「花をいける」という行為よりはるかに昔から、人々は花と葉でガーランドを作り、聖なる場所へ飾ったりしたものでした。ギリシャ・ローマ時代には、オリーブのリースが**勝利と名誉**のシンボルとして与えられてきました。

このような装飾を作るという慣わしは、象徴する意味こそ変化したものの、時代をこえて受け継がれてきました。玄関のドア、室内のドアや壁にかかるリースは、**友好と歓迎**のしるしと考えられていますし、実際クリスマスの季節にドアにかける伝統的な常緑樹のリースは、歓迎のリースとして知られています。





勝利のシンボルは「月桂樹」、それとも「オリーブ」?

「月桂樹」が勝利のシンボルといわれることもあり、勝利者の頭に授けられたのは月桂樹とする説がありますが、正確ではないようです。

月桂樹がギリシャ神話の中で聖樹として神聖視されたことや、「古代オリンピック」とは関係のない催し(太陽神の聖地デルフォイで行われた大祭)の勝者に授けられたことから、誤解が広まったようです。

古代オリンピックでは、勝者に授けられる冠にクレタ島のオリーブの樹からつくられた「オリーブ冠」が使われた伝統が正しいようです。

その証拠に、アテネ五輪(2004)では、やはり「オリーブ冠」が授けられていましたよ！
もともとオリーブは鳩と共に「平和の象徴」ともされています。

オリーブの「花言葉」は、平和、安らぎ、知恵、勝利です。



開会式(アテネ五輪2004)



オリーブ葉冠(アテネ五輪2004)



国連の旗
(世界地図とその両側を平和の象徴・オリーブが囲む)



リースに使われる「素材」には意味、願いがこめられています

●魔除け、豊作祈願

モミノキやマツ、ゲッケイジュ、オリーブなど「常緑樹の葉」は、災害のない豊作の繁栄を願います。



モミノキ



マツ



ゲッケイジュ



オリーブ

●受難と忍耐、犠牲

トゲのあるヒイラギの葉が「クリスマスリース」の「原形」によく使われてきたのには、キリストが十字架に架けられた時に被せられた「イバラの冠」を象徴するものと言われます。



ヒイラギと赤い実

●赤い血、キリストを象徴

「クリスマスリース」のヒイラギの赤い実は、やはりキリストの流した血。「赤」は血の色だけではなく、愛と寛大さをも意味します。ブドウはキリストを象徴するものとされています。

●収穫

松ぼっくり、麦の穂、ブドウの蔓、リンゴなど、作物の「収穫」を表現するものです。



一言メモ 「リンゴパワー」

「リンゴ」は寒い冬に保存がきき、栄養のあるありがたい作物として、常緑樹に吊るして神へのお供えものとしても使われていました。



●永遠

常緑樹に代表される「緑」は、永遠の命、永遠の愛を表す色とされています。



一言メモ 「リースに使う色にはさまざまな意味が・・・」

綿などで「白」をあしらうのは、純潔、純粋な心
ベルなど「金銀」はベツレヘムの星 = 豊かさ



リースいろいろ・・・そして活用もいろいろ

●リースの活用方法(例)

(1)エクステリア

- ・クリスマス
- ・お正月
- ・ウェルカムボード(お客さま歓迎!の印)
- ・アウトドアアクセサリー(窓辺、玄関など)

(2)インテリア

- ・インテリアアクセサリー (壁掛け、ドア掛け、棚飾りなど)
- ・キッチンリース (香辛料、月桂樹、ニッキ、唐辛子などでつくり、折々に使っていく)

●リースの材料によるタイプ(造花などを使わない「ガーデニングスタイル」の場合)

(1)フレッシュプランツ1

リングそのものは木・枝のツルですが、季節のフレッシュな葉、枝、花、実を取り付けてつくります。「寿命」は長くはありませんが、材料により1ヶ月くらいは楽しめて、何といてもきれいです。アジサイ、ミモザなど美しく、色の移り変わりも楽しめます。



(2)フレッシュプランツ2

リングに水ゴケなどを取り付けて、そこに季節の草花や常緑性の植物などを植え付けます。上手にメンテすると長持ちします。



(3)ドライプランツ

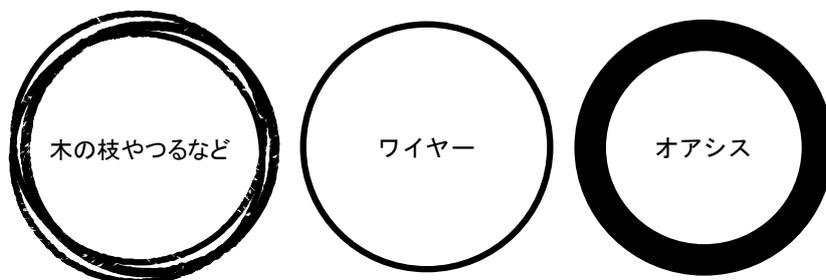
ツルのリングなどを使って、長く保つドライフラワーや木の枝や実、アクセサリー類でつくります。月日と共に色は変わりますが、それも楽しみです。



リースの基礎知識

1. リースの材料(リング用)

下の3つが代表的なものですが、針葉樹の葉、例えばモミの木、ミモザ、バラなどの木や枝を丸めたりしたものを土台にすることもできます。

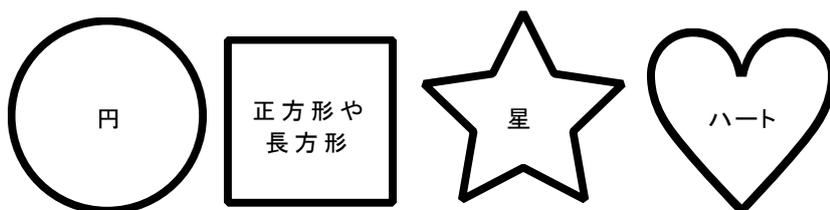


2. リースの材料(飾りつけ用)

- ・生花やフレッシュハーブ
- ・ドライフラワー
- ・アートフラワー
- ・木の実
- ・落ち葉
- ・小さなおもちゃ
- ・きれいな包みのアメ
- ・千代紙や和紙
- ・リボン
- ・かわいい形の Pasta
- ・香辛料
- ・ドライフルーツ
- ・鈴、松ぼっくり、星などのオーナメント

など、身近なところでいろいろな材料があります。

3. リースの形



その他、三日月の形や大きな豆の形、動物の形など最近のリースは形も多様化しています。オリジナルな形をつくって個性を出してみましょう。

4. リースの保存

リースも生きています。ドライフラワーも時間が経つと、だんだん色が落ちてきます。少しずつ色はセピア色に変わってきますが、色の移り変わりの様を見るのもいいかもしれません。花によっては何年も楽しめるものもありますが、崩れてきたり色落ちがひどくなったものは、その部分だけ花を取り換えてリニューアルし、また雰囲気の違いしたリースとして長く楽しみましょう。ほこりなどはヘアドライヤーで吹き取って下さい。

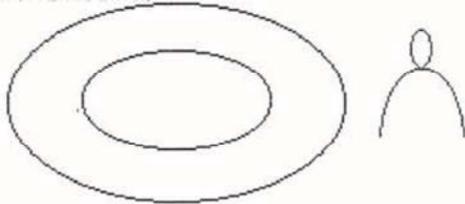
生花の場合、デザインの中で、1つか2つの花が他の花より早くしおれ始めたらそれを取り除き、また色あせた花びらがあれば切り取って、好ましくない部分が目立たないようにします。

リースのつくり方参考事例

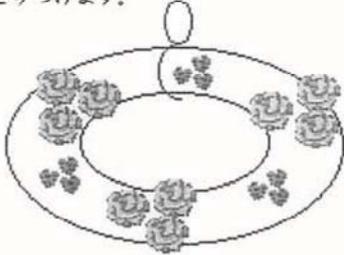
ドライフラワーでするととても簡単。四季を通じていろんなリースが出来ます。またハーブでつくと、良い香りがお部屋に広がります。



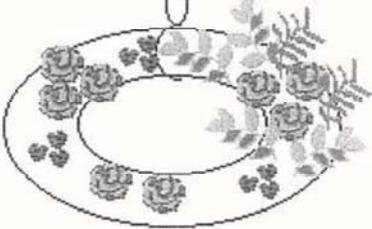
小さくつくっても大きくつくってもかわいいリース。ドライフラワーでつくと半年くらいもちます。



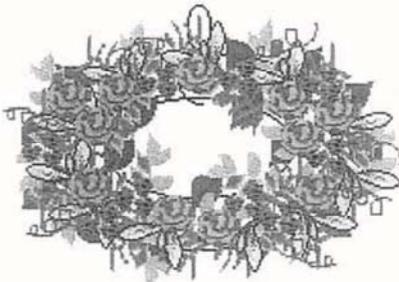
リース台とワイヤーを用意します。ワイヤーは中央にねじりながら輪をつくって壁掛け用のフックにします。これをリース台の上部にとりつけます。



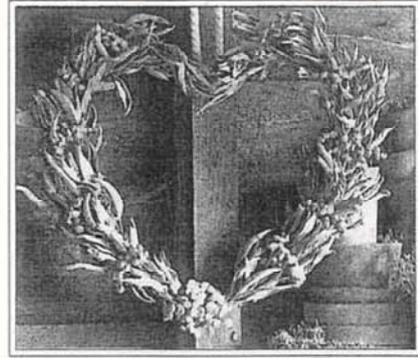
完成の時に一番よく見える場所に中心となる素材を配置して、ワイヤーなどでつけます。グルーガンやボンドでつける方法もあります。



ポイントとなる素材のまわりに葉や細かい花などをうめていきます。（この時に一方方向にさしていくと流れのある作品になります。）



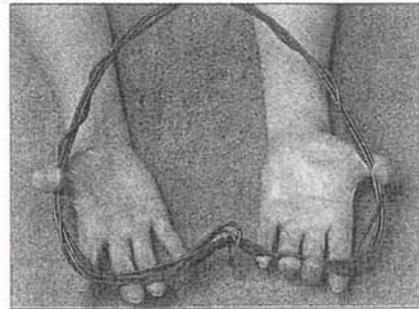
全体のバランスを見ながら花を足したりして仕上げます。



かわいいハート型のリース



ペンチで太い針金の端を小さなループ状にします。直径約30センチの輪をつくり、その上にさらに3周分つくってからペンチでカットします。一番上の輪で、他の3つの輪を束ねるようにねじりこみます。



最初に小さなループ状にした部分を向こう側にして、輪を両手でしっかり持ち、左右対称となるようにハート型に曲げます。



針金で、乾燥したハーブや針葉樹など小さな束にしてしばりつけていきます。同じ大きさの束にしても、大小変化をつけても楽しいです。ワイヤに花束を針金で固定していきます。

今日のリース制作材料(下記の通り、1人当りの数を各自確認して下さい)

■今回作成するリース見本(みなさん思い思いのデザインをしてみてください)



飾りをリース全体に配置した例



飾りをリースの片側に配置した例

- | | |
|---------------------------------------|----------|
| 1. リースベース(リング) | 1個 |
| 2. マツボックリ(大・小) | 5個 |
| 3. サンキライ | 合計70cm程度 |
| 4. ユーカリ | 1枝 |
| 5. アメジストセージ | 1本 |
| 6. ミックス飾り | 1個 |
| 7. モミジバフウ(大・小) | 2個 |
| 8. クヌギ | 1個 |
| 9. ツバキ or ドイツトウヒ or
ヒマラヤスギ(シダーローズ) | いずれか1個 |
| 10. 針金 | 10本 |
| 11. ひっかけ用針金(固め) | 1本 |
| 12. 持ち帰り用袋 | 1枚 |

初冬から冬にかけてのガーデニング

1. 季節の特徴

晩秋から初冬・・・寒さへの「準備体操」の期間です。日光をできるだけ浴びさせ、吹く風に慣れさせて、養分を蓄え、体力をつけさせたいです。

年末から2月いっぱい、常緑樹であっても枝は伸びることはなく、植物の多くは生長を止めます。でもこんな時が、植物にとっては「一年のスタート」。

自然界では枯れ葉・枝が土と混ざり、土の中の微生物・バクテリアが活躍しやすい冷温が伴って、「天然の腐葉土」がつくられ、夏場に消耗した土の再生、春からの生長への下ごしらえをしています。

2. この時期の「庭しごと」

(1)寒肥

自然の教えに従って、土の上に置くだけではなく、土を掘って肥料を埋めるのが効果的です。

(2)剪定

サクラやウメのように花芽を夏頃につける樹は別にして、落葉樹の多くは、剪定の絶好のタイミングです。不要枝を、枝の付け根から刈って下さい。

(3)宿根草・多年草の切り戻し

夏緑性の草花は、冬眠に入り始めて葉が枯れます。根は残して地上部を刈り取ります。

(4)球根

冬、早春から花をつけるスイセン、春が楽しみのもスカルリ、ナルコユリ、ヒヤシンス、チューリップなど、球根類は今が植え込むラストチャンスです。

(5)この時期に向けた植物

ツワブキ、ユリオプスデージーなど早くも咲き始め、クリスマスローズ、バコパなどが冬の庭に色を添えてくれます。ローズマリー、タイムは年中収穫できますよ。冬向きの一年草(ビオラ、ストック、シクラメン、ビデンスなど)も早めに植えると長く楽しめます。



ツワブキ



ユリオプスデージー

草木の一年を通じた手入れのポイント

草木の手入れは、週末など日常的に少しずつでもやっておきたいことと、季節単位にやって良いことがあります。水やり、花がら摘み、除草など、主に草花類が相手だと、「ふだんの手入れ」が大切で、樹木では「年間レベル」がより大切となります。

草花類の一年を通じた手入れ

- 切り戻し … 古く弱った枝葉を根元近くで切って、新しい茎の生長、株の広がり を促します。種類によりタイミングが変わりますが、徒長し過ぎるか、花が終わった頃が適期です。
- 施肥 …………… 生長期(5月～6月)と花後(11月後半～12月)が効果的です。
- 補植 …………… 真夏と真冬以外は大抵大丈夫ですが、宿根草は春(3月～5月)が最適でしょう。

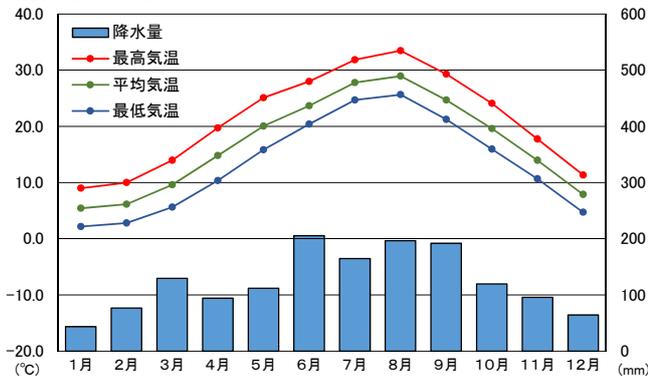


ランタナ
(高さ5cmほどまで切り戻す)

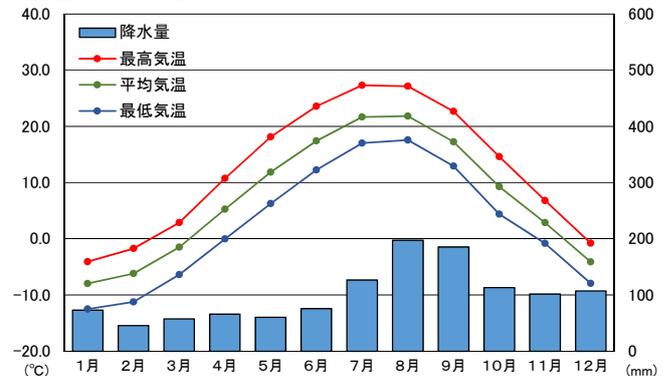
樹木の一年を通じた主な手入れ

- 剪定 …………… 樹種により違いがあり、初夏から夏、初冬から冬のいずれかが適期です。(詳しくは次頁)
- 施肥 …………… 「寒肥」と言われるように、冬(1月～2月)が適期で、大抵は1回で大丈夫です。
- 薬剤散布 …… 害虫が発生しやすい高温多湿の季節(6月～8月)の前後(5月、9月)が効果的です。

■大阪の気候



■旭川の気候



【気象庁(統計期間 2011～2016の平均値)】 ※降水量は月合計値、気温は月平均値

冬越し—植物による冬の過ごし方

植物には、寒さとの関わりで3タイプあります。

- ・非耐寒性 …………… 10℃以上の温度が必要(洋ラン類、ペゴニア類、ポインセチアなど)
- ・耐寒性 …………… 低温でも枯死しない(バラ、アジサイ、ブルーベリーなど)
- ・半耐寒性 …………… 0℃～5℃程度までの耐寒性(シクラメン、シラン、多肉植物類など)

関西の都市部では、最近冬もそれほど気温が下がらないので、「非耐寒性」以外はほとんど屋外でも大丈夫なものが多いようです。ランタナ、ブーゲンビリア、レモングラスなど熱帯性の植物も冬を越すことが多いし、環境に順応させる育て方もあってよいでしょう。

樹木の手入れ—剪定のポイント

樹木の剪定は難しい、と手出しを控える方も多いかもかもしれませんが、「何のために?」「どのようにするか?」を考えながらやり始めましょう。

少しの失敗は気にせず、でも少しずつやってみるとコツが必ず身につくものです。

■剪定は何のため?

- ①木のためにならない「不要枝」を取り除くことで、その木の本来の姿を保ち、生長を助けます。
- ②光や風が通り抜け、健全に育つように、混み合った枝を切って「透かし」ます。

■どのようにするか?

「不要枝」や混み合った小枝、中枝を枝の付け根から切り落とします。枝の途中で切ると効果が薄く、樹形をいびつにしかねません。

■いつ剪定するか?

①落葉樹

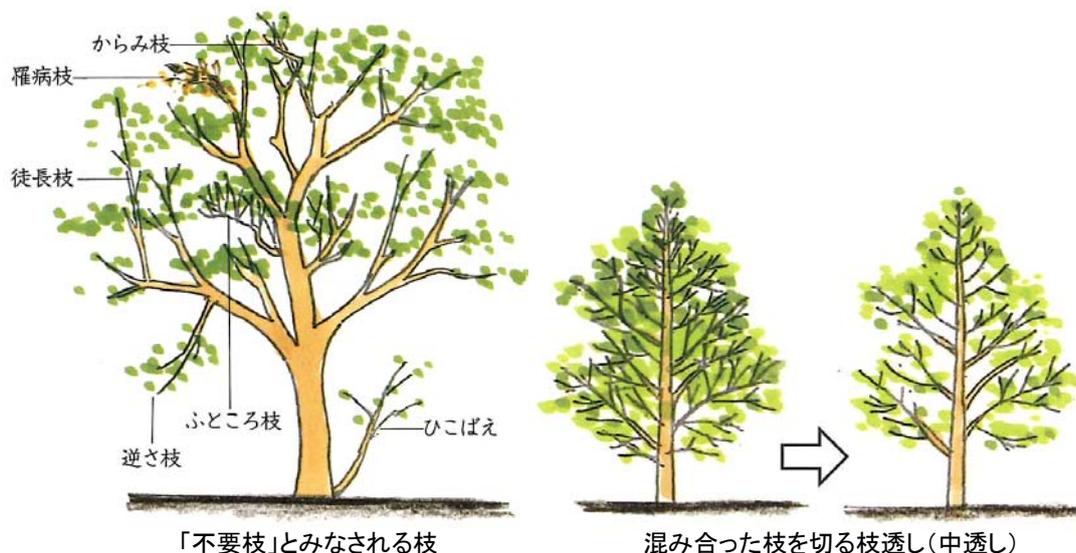
基本は休眠期に入る冬(12月中旬～2月)が適期です。

ただし、花木類は夏に花芽ができていますので、その前に済ませたいです。

②常緑樹

初夏(6月～8月中旬)が伸び過ぎ、混み合い対策の適期です。

暖地性の木が多いので、冬の剪定は避けます。耐寒性があるものは冬も大丈夫です。



■冬の剪定のポイント

春先には、新芽が枝につき始めます。それまでに不要な枝をはらうのが、春に若葉を思う存分茂らせて、生長を楽しむコツです。12月に入ればOK、遅くても2月までには剪定を済ませたいです。

新芽が出るまでは、多くの木々は「休み」の時期で、剪定も負担をかけないし、樹形も見定めやすいはずで